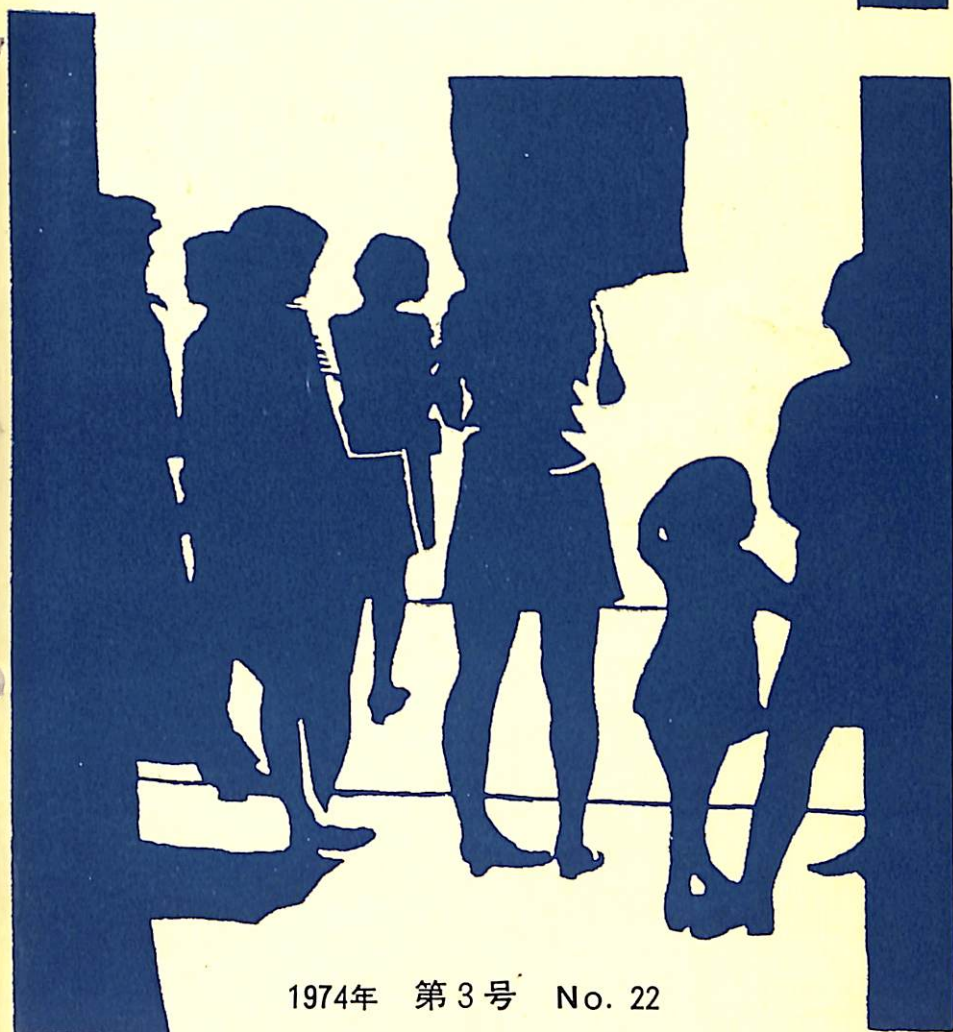


新時代

視覚障害に関する研究と情報



1974年 第3号 No. 22

新選

〇〇冊の本

岩波文庫

選者

内田義彦・大江健三郎・加藤周一
辻邦生・都留重人・鶴見俊輔
寺田透・中野好夫・林達夫
藤沢令夫・益田勝実・松田道雄
丸山真男・湯川秀樹・吉川幸次郎

若い人々から「基本的な古今の良書を読もう」とするとき、どの本を手がかりにしたらよいのか」という投書を多くいただく。そこで岩波書店は、文庫の既刊書から、一〇〇点を選んでみた。この試みは、岩波文庫創刊三十五周年に当たって一度行われ、大いに迎えられた。以来十四年、岩波文庫は創刊の方針を堅持して、更に数多くの古典を加え、併せて改訂改訂の出版を実行してきた。その成果を生かし、新たに十五人の先生にお願いして、書目を選び直していただいた。この百選が、若い人たちにとって永くまた深く心の糧となつてゆくことを私たちは期待している。

▼全冊揃えてお求めの方のためにはセット・ケース入りを用意しました。(一揃い/二六冊Ⅱ四三、〇五〇円)

▼詳細は小冊子『新選一〇〇冊の本』をご覧下さい。小売書店または、ハガキで直接小社「営業部」あて御請求下さい。

ソクラテスの弁明・クリトン 山椒大夫・高瀬舟他四篇 シャーロック・ホームズの冒険 ロウソクの科学 銀の匙 黒猫他三篇 世界をゆるがした十日間全二冊 方丈記 新訂新刊万葉集全三冊 桜の園 古代への情熱 共產党宣言 童話集風の又三郎他十八篇 ロビンソン・クルーソー全一冊 アルプス登攀記全一冊 フランクリン自伝 河童他二篇 啄木歌集 カンティード 哲学の改造 吾輩は猫である全三冊 阿Q正伝 狂人日記他十二篇 芭蕉俳句集 ユートピア オセロウ 萩原朔太郎詩集 ジャン・クリストフ全八冊 余は如何にして基督信徒となりし乎 檸檬 冬の日の九篇 ブツダのことは クオヴァデイス全三冊 ツアラ トウストラはこう言つた全二冊 中野重治詩集 暗夜行路全二冊 魔の山全四冊 エミール全三冊 ファウスト全三冊 ゲーテとの対話全三冊 ファーブル昆虫記全二十冊 斎藤茂吉歌集 兵士シユウエイクの冒険全四冊 赤と黒全三冊 好色五人女 人権宣言集 夜明け前全四冊 古今和歌集 玉勝間全二冊 天文対話全三冊 三国志(三国演義)全十冊 戦争と平和全八冊 古事記(ヘロドトス歴史全三冊) 唐詩選全三冊 外資・鼻 方法序説 自筆本折たく柴の記 ベルツの日記全四冊 真空地帯全二冊 憂鬱録 自由論 タルチュフ 従兄ボンス全二冊 新約聖書福音書 プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神全二冊 源氏物語全六冊 ボヴァリー夫人全一冊 オイデプス王 道德形而上学原論 徒然草 論語 エセー全八冊 ニコマコス倫理学全二冊 とん底 蟹工船、一九二八・三一五 白鯨全三冊 マルクス資本論全九冊 歌集抄 科学と方法 悪霊全四冊 国家と革命 イリアス全三冊 旧約聖書詩篇 審判 実践論 矛盾論 高野聖 盾かくしの霊 ドン・キホーテ(正篇)全三冊 善の研究 風姿花伝(花伝書) 般若心経 金剛般若經 湯東綺譚 オネーギン 中江兆民三醉人経綸問答 新訂新古今和歌集にこりえ・たけくらべ 静かなドン全八冊 ビーグル号航海記全三冊 枕草子 マルテの手記 イワン・デニーソヴィチの一日 文明論の概略

岩波書店



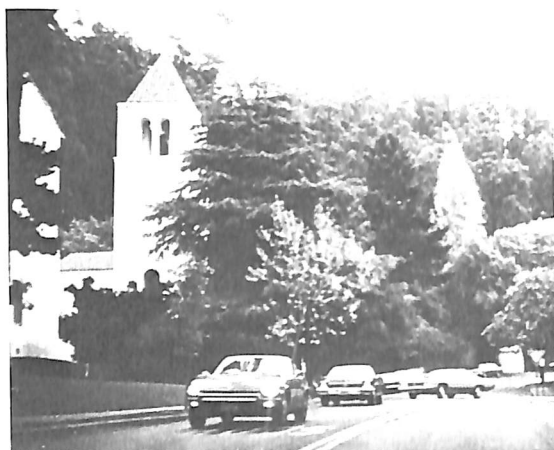
東京千代田一ツ橋
振替〈東京〉26240

アメリカの統合教育

視覚障害児の統合教育とは、個々の盲児や弱視児の発達のニーズに応じ得る教育の場を設定し、適切な教育的措置が可能なように、それらの教育の場を組織化することである



盲学校の寄宿舎から近くのハイスクールへ通学
する盲女生徒。盲導犬を連れて・・・



カリフォルニア州立盲学校

盲学校はいまや視覚障害児の統合教育のセンターとしての機能を果たしつつある



州教育局視覚障害教育コンサルタントや指導主事との密接な連携のもとに、盲学校から普通学校へ、普通学校から盲学校への視覚障害児の転入学の判定・措置にあたっているアムレン女史(カリフォルニア州立盲学校教諭)



強度弱視・難聴にもめげず
この明るい笑顔！

—— 小学校5年生，重複障害巡回
教師の特別指導も受けながら ——

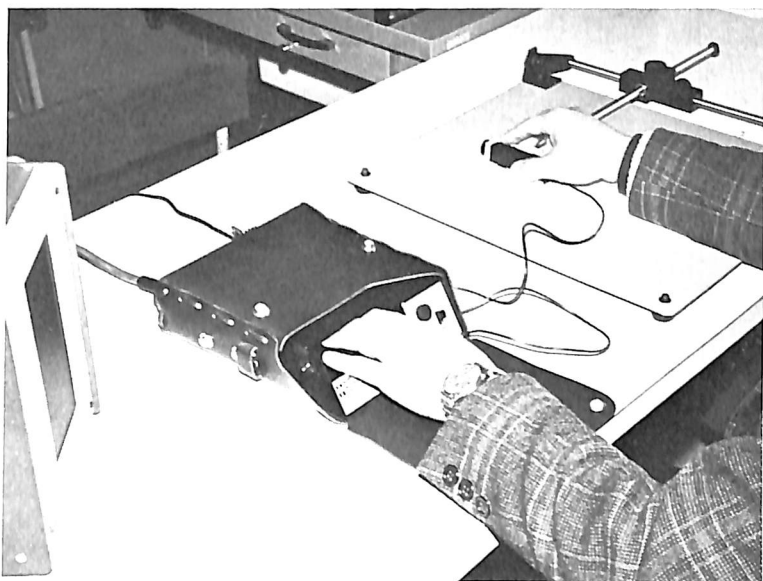


高校のリソース・ルーム

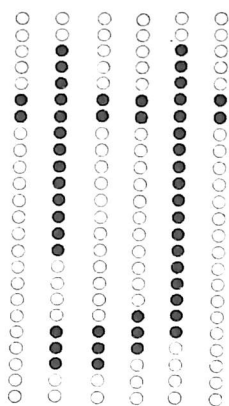
—— 点字図書や拡大図書が
豊富にそろっている ——

オプタコン（盲人用光学式読書器）

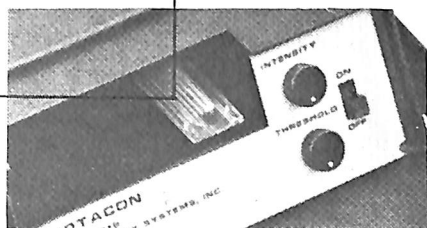
普通に印刷された文字をそのまま読むことができたなら・・・
これは長い間の盲人の夢であった。ところがこの夢をかな
えてくれるものが現われてきた。それがオプタコンである



黒い部分が文字の形に浮き出たピン



「オプタコン」ハ、モウジン
ツウニ イサササレタ モシガ、

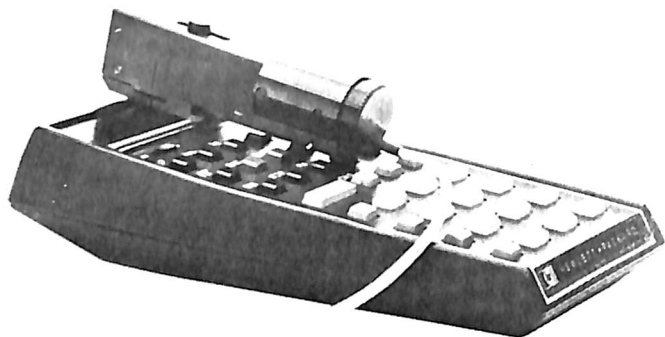


カメラで文字が光学的に読みとられ、そ
れが電氣的信号に切り換えられて、触読
板に針（ピン）文字としてあらわれる



スタンフォード大学の
リンビル教授（オプタ
コンの開発者）のお嬢
さん（スタンフォード
大学学生，全盲）はオ
プタコンを使って，毎
日，普通の新聞や雑誌
を読み，また授業の中
でもオプタコンをフル
に活用している

卓上計算機の答え
をただちに読みと
ることができる



目が見えなくてもオプタコンがあれば



手紙をタイプした
あと自分で読みな
おすことができる

写真と解説

国立特殊教育総合研究所・視覚障害教育研究部長
(兼)教育工学研究部長

小 柳 恭 治

目 次

1974年 第3号 No.22

2 ページ評論 理療教育のあるべき姿……………	芹沢勝助	2
室内歩行における		
オリエンテーション指導……………	山梨正雄・寺田節治	4
質問に答えて……………		14
内外文献紹介……………		19
この人 教育学博士加藤康昭氏と滋子夫人……………		23
アメリカの“職業生活”教育……………	ハーヴェー・E・ウォルフィ	27
インフォメーションコーナー……………		37
進学・就職（昭和49年度）……………	直居 鉄・下沢 仁	41
編集後記……………		45

2 評論

理療教育のあるべき姿

芹 沢 勝 助

「三療だけが盲人の生きる道」のように考えていた戦前の社会事情からすると、時勢も大きく変わったものだとしみじみ思います。

盲学校高等部を終えて、一般大学への道もひらけ、数多くの視覚障害をもつ青年諸君が進学し、勉強しています。まだ、いろいろの不便や困難はありますが……。

こうした現状では、盲学校で、生徒の知的能力や才能、適性などを第二義的に考え、理療科への進学をしいて勧奨する要もなく、やがて古い殻（盲学校即理療科）から脱皮することになるでしょう。多くの青年諸君が、自らの能力と適性にかなった一般大学に進学することを心から願い、期待するひとりです。

しかし、また、その知的能力や才能のゆえに、大学への進学が不可能な者もいることは事実です。どんなに国や公共団体の福祉対策が進んでも、自力で自立できるほどしあわせなことはないのです。その点日本では保健マッサージが、視覚障害者の社会自立にとって有力な手段となります。こうした人々のための「社会自立への道」は、ぜひ確保しておきたいものです。

また、一般大学への道を求めず、国民保健のにない手として、誇り高い治療師の道を志し、理療科や理学療法科に進学する者もあつたのです。大学へ進学した諸君が、知的な職業人として自立するためにはらう努力も、理療科を志した諸君が、医療の分野で、技術者としての役割を果すためにはらう努力も、道こそ違え、障害者として誇るにたる姿であると思います。

なぜ、こんなことを改めていうかといいますと、盲学校を終えて大学に進学する若い諸君の中には「理療科に進学する者」を、白眼視したり、蔑視したりする傾向が必ずしもなかったとはいきれないからなのです。

また、理療科に進学する諸君の心構えにも、「医療の一翼をになう」というような誇りや自信もなく、漠然と「仕方がないから。あきらめ」の心境で、その日ぐらしの学習を続けている者も多いことは事実です。

今後の盲学校は、こういう学習意欲に欠けた理療科一辺倒の教育の場であってはならないのです。多彩な職域で、専門知識と技術を身につけた有為な青年諸君を、社会に送り出す場であり、その一環として、数は少くとも、精選され、この道に徹した臨床家養成のための理療科が実在するということでありたいと思います。昭和48年度に発足した盲学校高等部の学習指導要領（文部省）は、こうした理念を踏まえて編成されているのです。

高等部の主体を、従来の理療科から普通科に置き替え、大学進学への道を容易にし、理療科を、専攻科3年課程に移行して、専門職業コースに編成替えし、同時に高等部に、保健理療科（マッサージ・指圧科）、家政科、音楽科、調律科等の職業科を設置できるようにしたのです。そしていままでの2年制の別科を廃止し、すべての生徒に高校卒の誇りをもてるように配慮したのです。

専攻科のうち理療科（3年制）では、前にも述べましたように、東洋医学の臨床とほんとうに取組み、勉強しようとする者に開く課程とし、障害はあっても、つぶより、筋金入り、この道の尖兵たらしとする青年諸君の養成を期待し、近い将来、教授陣、施設、設備の規準にかなったものから「3年制理療科短大」への移行措置がとれる道も開かれました。（文部省、理療科短大設置規準による）

将来、福祉対策がどんなに進んでも、「保健理療科」は、自力で自立できる道として大切であり、「理療科」は、日本の伝統医学をになってきた先人の業績を継承し発展させるため、今後も大切な領域であり、自らの手で、軽視したり、否定したりして、芽をつんでしまってはならないのです。それは日本の伝統音楽（箏曲、三弦など）が再認識され、時代の脚光をあびつつある中で、歴史に輝くべきはずの盲学校での邦楽教育が、細々と、やっと息づいているといった状態。理療教育をそんなふうにしてはならないと思います。

（東京教育大学教授）

立ち読み版はここまでとなっております。

続きをお読みになりたい場合には
社会福祉法人 視覚障害者支援総合センター
までお問い合わせください。